

令和 8 年度 第 1 回 前橋市環境審議会 議事録

■審議会名

前橋市環境審議会

■会議名

令和 8 年度 第 1 回 前橋市環境審議会

■日時

令和 8 年 8 月 2 4 日（月） 1 4 時～ 1 5 時半

■場所

前橋市役所 議会棟 研修室

■出席者

委 員…15 名中 13 名（7 番、15 番欠席）※別添名簿のとおり

幹 事…岡田環境部長、小暮環境政策課長、田嶋ごみ収集課長、木村廃棄物対策課長、
林清掃施設課長

事務局…徳野副参事、田中副参事、神原担当係長、田所主任、笠原主任

傍聴人… 2 名

■議題

- （1）前橋市環境審議会会長及び副会長の選任について（議案 1）
- （2）前橋市環境基本計画の策定について（議案 2）（諮問案件）

■会議の内容

1 開会

市長あいさつ

2 自己紹介

委員の自己紹介

3 議事

- ・前橋市環境審議会運営規則（以下「運営規則」という。）第 4 条第 2 項の規定により、
会議が成立していることを報告
- ・運営規則第 5 条の規定により、会議が公開となっていることを確認
- ・傍聴人に対する注意事項の説明

（１）前橋市環境審議会会長及び副会長の選任について（議案１）

運営規則第２条の規定にもとづき、委員の互選により、西菌委員が会長、遠藤委員が副会長に選出された。

- ・議長は、運営規則により、会長が務める。
- ・議事録のホームページ掲載について確認
- ・議事録署名人については、柴崎委員を指名

（２）前橋市環境基本計画の策定について（議案２）（諮問案件）

- ・次期環境基本計画の策定に向けて、前橋市環境基本条例（平成１２年３月３０日条例第１９号）第２３条の規定により、市長から審議会へ諮問書が提出された。
- ・次期環境基本計画の策定について、資料にもとづき事務局から説明

（議長 西菌会長）

現在の環境基本計画が令和９年度までということで、その中身について今、事務局から概要の説明があったが、これをベースに次の計画をつくっていくにあたり、いろいろな意見を出していただくということで、委員のみなさまには承知いただきたい。

（劉委員）

次期計画は１０年間という説明があったが、その設定根拠はどのようになっているのか。現在、地球温暖化などの環境の変化は激しさを増す一方で、従前より１０年間で改定を重ねてきたのだとすると、そこは同じでよいのか疑問に思う。

（事務局：環境政策課）

本計画は、上位計画である前橋市総合計画と連動しており、計画期間も同じである。

ただ、ご指摘のとおり、近年の環境変化を見ると、１０年間という計画期間は少し長いということは認識をしているため、ある程度のところで見直しをする予定である。

（議長 西菌会長）

群馬県の計画についても中間見直しを取り入れているので、同様の対応となるのだろうと思う。国の計画では、２０３０年までに、温室効果ガスを（２０１３年度比で）４６％削減という目標を掲げてやっているが、エネルギー関連事業者としての対応状況等、共有いただける内容があればお話いただきたい。

(関口委員)

東京ガスでは、2050年にカーボンゼロということで、事業に関わる全ての温室効果ガス排出をゼロにするという目標を掲げて進めている。

取組の例として、まずは、市の計画にも関わる内容であると思うが、事業用・家庭用のさまざまな機器の脱炭素化を推進している。例えば家庭用で言えば、給湯器で、CO₂排出量が削減されるものや発電機能を有するものがあるので、そういった環境機器への入れ替え。工業用や業務用についても同様に、減らせるところは減らすという取組である。

別の取組としては、eメタン・バイオメタンという人工的に作る都市ガスへの切り替えである。特に、eメタンについては、CO₂を回収して、太陽光発電で水を電気分解して水素を作り、そこに回収したCO₂を結合させてCH₄=メタン（都市ガスの主成分）を生み出すという仕組み。ガス機器から排出されたCO₂を回収して、それを再利用して都市ガスをつくるというCO₂の循環型社会の実現に向けて研究を進めているところである。

(議長 西菌会長)

化石燃料からの脱却というのは、世界的にみてもどんどん進んでいるところなので、知見をお持ちの委員さんから情報提供をいただきつつ、計画に盛り込めるよう議論していきたいと思う。

環境基本条例で定められている5つの環境像や3つの基本理念のところでは、エネルギー関係以外にも環境保全等にも触れている。群馬県は自然豊かというところもあり、自然環境の保全や生物多様性の確保は重要なトピックである。

(柴崎委員)

「自然」というところで言うと、最近話題になっているのは外来種のクビアカツヤカミキリであるが、日本で初めて発見された2012年の時点でもっと積極的な対策がなされていたら、いまのような被害拡大は防げていたかもしれない。「10年前にきちんとした対応をしていたらこうなっていなかった。」ということは他にもたくさんあるので、手遅れにならないように、これからの10年についてよく考えていきたい。

また、環境教育・啓発活動を行う中で、「安全な自然」がなくなっていることに危機感を覚えている。里山の減少によるクマの出現増や、鹿が増えたことによるヒルやダニの増加。特に子どもに向けた活動を提供するにあたり、「安全」の確保は特に重要であるので、こういった害獣への対応をどうしていくかも、計画をきちんとつくってやっていく必要があると考えている。群馬県の生物多様性地域戦略の内容も参考にしながら、前橋市では山間部と都市部があるので、そのバランス、共生の仕方について考えていかないといい

ない。

（議長 西菌会長）

自然について、「安全」という視点は今まであまりなかったように思うが、非常に大切なことである。

「安全」という視点でいうと、水関係や熱中症についてもポイントとなってくると思うが、そのあたりにあるか。

（平川委員）

今年は豪雨による被害がニュースで目立つが、雨が降ると山から土砂が多量に流出し、それが川を伝って市内だけでなく県外まで流れていく。

海外では、雨で例えば流木が流れてきても、そのまま放置して、むしろ生きものの生息地になり、豊かな自然につながるという考え方もあるようだが、特に群馬県、前橋市は急勾配な場所が多いので、今後そのあたりはトピックとしてあるのかなと思う。

（塩ノ谷委員）

熱中症については、現計画では、クールシェアの普及や舗装の促進に取り組み、評価指標としては搬送者数を減らすということになっている。熱中症搬送者のうち、一番多いのは家庭内での発症で、その予防としてはクーラーの適切な使用を呼びかけているが、クーラーを使えば環境には負荷があって、そのあたりのバランスは難しい。

熱中症患者を減らすことと温室効果ガスを削減することには距離があると思うので、そこをどうリンクさせていくのかは考えて、計画にいられていく必要がある。

（議長 西菌会長）

水害、熱中症、それから先ほどの獣害についてもだが、安全（健康）と環境についての関わりは、次の10年の計画の中で議題になってくると思う。

安全についてということで、生物多様性の話に戻るが、先ほど鹿が増えていることなど野生動物の関係の話が出ていたが、林業関係でなにか情報はあるか。

（樺澤委員）

先ほど柴崎委員からも話があったように、鹿が増えていることによってヤマビルがすごく増えている。いままで、前橋市内ではほとんどいないという認識であったが、粕川町中之沢のあたりから増え始めて、いまは事務所のある滝窪町のあたりまで拡大してきてい

る。

原因のひとつとして、山の手入れをする人が減っていることで、それまでは人の手が入って整備されていた場所に動物が住み着いてしまって（ヒルなどが）増加しているのではないかと考えている。

（浅倉委員）

家族が自伐型林業に取り組んでいて、ヤマビルがかなり多いという話はよく聞いている。

また、別の話になるが、現状の計画の中で示されている「市民・事業者・市の環境配慮指針」について、次期計画ではもう一步踏み込んだ内容で、行政も市民も取り組む必要があると考えている。

2021年に人口約140人の地島（福岡県宗像市の離島）で、島民全員が3ヶ月間、洗濯・台所・入浴などの洗浄剤を合成洗剤から無添加石けんに切り替えた生活をして、生活排水や水質、微生物への影響を調査するというプロジェクトがあった。結果として、海に流れる生活排水の汚れや化学物質の量が減ったり、（下水処理場の浄化槽で汚れを分解・浄化する）微生物の量や種類が増加するなどの水質改善の効果があつたりしたということだった。

市民向けの行動提案として、「食べ残しの油を流さないようにしましょう」というだけではなくて、地島の実験のように具体的な一步を提案するというのも、方法として良いと思って紹介させていただいた。

（齋藤委員）

市の環境基本計画を改めて見てみると、先ほど浅倉委員からもあつた市民が取り組むべきことについての記載があつて、市民としてこういう行動指針や、また市としての具体的な目標値（「熱中症で搬送される患者数を減らす」等）があつたことを知らなかった。環境問題に取り組んでいくときに、やはり市民ひとりひとりの行動、事業者の活動というのがとても重要になってくることから、計画についてもっと積極的に周知していくべきだと感じた。

前橋市の環境について、なにか自慢できること、特徴的な取り組みたいなものが計画に盛り込めればとも思う。

（事務局：環境政策課）

計画を策定するだけでなく、その推進力を高めていくためにも、市民や事業者に対してその内容を訴求していくところにも、より一層取り組んでいきたい。

(平川委員)

行動指標のところ、施策展開に自然や野鳥の観察会というのがあるのを見て、例えば自然観察会であれば、川に関連したこども向けの取組ができればと思った。

観察するだけでなく、(安全な範囲内で)川の流れを実際に感じるができるイベントなどがあれば、そこから魚類の生態についてや、災害時の安全面について考えることもできる。実際に、他市の河川ではそういった取組があったと記憶しているので、前橋市でもできれば。

また、先日聞いた話だが、群馬県主催の「エコムーブ号」という、主に小学校4年生以上を対象にしたいろいろな実験を提供するという取組があつて、前橋市内での実施が少ないと聞いた。こどもたちの環境への参加意識の醸成について、市だけではできないことも、県との連携をすればできることもあると思う。

(議長 西菌会長)

市では、計画において行動指標を定めているが、それがうまく市民に伝わっていなかったり、市民参加の機会をどう作るかというあたりが不十分であつたりということを目撃さんからご意見いただいた。次の10年間では、計画の策定だけではなく、その実行体制についてもよく考えていく必要があると感じた。

(萩原委員)

地球温暖化防止推進員として、市民参加の機会となるようなこども向けのワークショップを行っているが、参加したこどもたちが、そのあと各家庭に帰ってどのような生活を送っているか見えないという悩みがある。その場で楽しんでくれるだけでなく、自然と具体的な行動変容につながるような学びを提供できたらいいと思っている。

(遠藤委員)

商工会議所では、昨年度から、(会員の事業者が)自社でどのぐらいのCO2を排出しているかをまず知り、その上で具体的な削減に向けた行動につなげていこうということで、いろいろと活動をしている。

ただ、市の計画が市民にうまく伝わりづらいことや、具体的な一歩へつなげることへの難しさという話と同様に、会議所の中でも会員にその活動を伝えて広げていくところに課題を感じており、今後より力をいれていきたいと考えている。

(議長 西菌会長)

そろそろ時間になるので、全体を通してなにかあれば最後、ご意見をいただきたい。

(齋藤委員)

環境基本計画では、非常に多岐にわたる分野について、環境の視点からさまざまな施策に取り組んでいくということになっているが、特に重点的に取り組むものについてもっと市民に伝わるようにしていただけると、市民や事業者も動きやすいのではないかと思う。

(議長 西菌会長)

3つの基本理念と5つの環境像、これをベースにしてこれから次期計画を策定していくことになる。次回の会議は約半年後に開催が予定されているが、今日をスタートに、それぞれの委員のみなさんには、どんなことを計画に盛り込んでいくべきかということを考えてながら過ごしていただければと思う。

4 閉会

■令和8年8月24日 前橋市環境審議会 委員名簿

	氏 名	出欠
1	浅 倉 明日花	出席
2	齋 藤 幸 男	出席
3	劉 林	出席
4	剣 持 恵 子	出席
5	萩 原 実 咲	出席
6	遠 藤 宗 司	出席
7	岡 庭 英 樹	欠席
8	樺 澤 勝	出席
9	澁 谷 哲 央	出席
10	関 口 祐 造	出席
11	柴 崎 薫	出席
12	西 薗 大 実	出席
13	平 川 隆 一	出席
14	塩ノ谷 朱 美	出席
15	小 林 一 廣	欠席